B．生徒指導研究

中野　満男　　米山　　誠　　米田　閏一
丸山　　豊　　斉藤　真子　　高橋　　守

生徒指導における自由・自主性・規律等の問題（Ⅱ）

―― 中学・高校生の実態に即して ――

米　山　　誠

1. 生徒理解の緊要性

『昭和56年版青少年白書』（総理府青少年対策本部編，57.1.16発行）によれば、警察が補導した全国の非行少年数は、この約10年間増加の一途をたどり、55年には戦後最高の166,073人（前年より22,915人増）となっている。校内暴力についてみると、55年中の発生件数は、1,558件で（前年より29％増）、史上最高の記録である。これは55年中の少年自殺者678人（前年より26.2％減）が戦後最低を記録しているのに比して対照的と言えよう。

さらに新聞[1]によって警察庁の56年前半の全国補導状況のまとめをみると、少年非行は55年よりすでに10％を超え、特に13歳（中２）だけは一気に60％の激増ぶりを示している。

なお、全国的状況ばかりでなく、例えば、私の住む愛知県安城署管内という狭い地域の状況を見てみると、56年中の補導少年総数1,300人は55年と比べ、50％増。そのうち中学生129人は、55年の40人に比べ、実に3.2倍である[2]。

また、今春（57年３月）、中学・高校の卒業式において警察官の警戒やパトロールを要請した学校数は全国で1,528校、全中学・高校の$\frac{1}{10}$に及ぶという[3]。

以上のような状況をみるとき、私たちはただそれを座視しているわけにはいかない。校内暴力のうち特に激化している対教師暴力事件の動機としては、「教師の注意・指導に対する反発」及び「学校の措置に対する不満」が合わせて72.5％である（法務省刑事局調べ）[4]。もう少し具体的な動機として「生徒指導の取組に対する教師間の足並みの乱れ、規則や禁止の指導の偏重、生徒の心情を無視した注意の仕方等学校における指導体制における何らかの欠陥」が指摘されている（文部省調査）[5]。各校が事件発生を未然に防ぐためには、それぞれ自校の生徒の実態を的確に把握し、問題点が認められれば、学校運営や生徒指導のありかたを厳しく点検する中で、その原因を究明しなくてはならない。そして、その学校の置かれている状況、条件に即して独自の対応策を練らなくてはならないと思う。

56年３月に私は、名大附属中学・高校において「自主性の尊重」という教育方針が、日常の教育実践の中で、はたしてどの程度意識され、生かされているのか知りたいと考え、アンケートを行った。その調査により、生徒たちの学校生活に対する感じ方、考え方、学校に対する不満や希望を具体的に知り、以後の生徒指導を進めるための重要な反省資料や指針とすることができた[6]。そして、約１年間過ぎた時点で、再度同じ生徒たちを対象としてアンケートを実施し、生徒の実態の変化を調査し、さらに今後の指導目標を立てることにした。こうして、56年度第３学期に行った調査は、主に、卒業を控えた中３、高３の生徒を対象とし、それぞれ過去の中学・高校生活に対する反省、今後の高校生活、大学又は社会生活への希望、意欲などを確かめることをねらいとした。15分間程度のアンケートであったにもかかわらず、生徒たちの日頃から積もっている不満、いらだち、悩み等がほとばしるように文字となり文となってアンケート用紙の狭い欄に溢れていた。一例を次にあげてみよう。

「不満などありすぎて書くのに困る。が、ここの学校は万事につけ、もっと折り目の正しい態度にすべきである。こんな学校になった責任は生徒にもあるが、教師にもあることを忘れてほしくない。いつも教師は昔はどうだったとかいうが、生徒の質が変ったのに対応して指導の態度を変えずにぬくぬくとふんぞりかえっている。それで、“おまえらは……”なんて言える

はずがない。去年の交通事故にしろ、林間の飲酒停学にしろ、あれで片が付いたとタカをくくってもらっては困る。今の体制を維持していく限り、これからもあいったことがないとは言えない。大体、教室で煙草を吸うとかトイレで吸うとかいうのは、教師が知らないだけのことで、知っていたら“この学校は校内暴力とか事件もなく……”なんてのんきに構えてはいられないだろう。くり返していうが、私は教師のみに責任を問うているわけではない。しかし余りにも旧態依然としており、現状打開の努力のない姿勢の改革を望むのだ。こんな学校から出られてせいせいする。ここで私は6年間を無駄にし、私をむちゃくちゃにされた。しばらくの間はこの学校を許すことはできないし、嫌いだし、憎く思う。」（高3女子）。

教師や学校の態度、又は教育方針と現実との矛盾に向けられた、この種の反応が高3生徒の約半数に見られる事実を、私たち教師はどう受けとめるべきなのか。無論、一笑に付するわけにはいかない。これらの生徒の“声”は、かりそめの発散として書かれたものではない。実は、一年前に行った調査に際しても、同じ生徒たちの同種の反応はすでに表れていたのだ。

私は、むしろこのような反応が認められるところに、救いがあり、今後の指導を発展させうる可能性が保証されているものとして受けとめたい。生徒たちの心が荒廃しきった後では、この種の率直な感想や批判は書かれないだろう。暴力的な反応がはねかえってくるようになったらもう手遅れなのだ。

2. 学校生活に対する生徒の意識

以下は、今春、名大附属中学校及び高校の生徒に対して実施したアンケートの結果であり、前述56年3月実施の調査にひきつづくものである。

○調査の対象

(1) 中学三年生 79名（男子42名・女子37名）
　 高校三年生 111名（男子48名・女子63名）

(2) 中学二年生 41名（男子22名・女子19名）
　 高校一年生 90名（男子44名・女子46名）
　 高校二年生 79名（男子32名・女子47名）

○調査の実施時期

- 高三　57年1月29日（56年度最終授業の日）
- 中三　57年3月4日（56年度最終授業の日）
- 中二　57年3月16日
- 高一・二　57年3月18日

A. 名大附中又は附高で学校生活を送ったことについて、いまどう思うか。

	中		高	
	男	女	男	女
	名 %	名 %	名 %	名 %
すばらしかった	7 (16)	5 (14)	4 (8)	3 (5)
かなりよかった	19 (44)	19 (51)	19 (40)	28 (44)
どちらともいえない	7 (16)	11 (30)	20 (42)	24 (38)
あまりよくなかった	4 (10)	2 (5)	3 (6)	7 (11)
全くよくなかった	6 (14)	0 (0)	2 (4)	1 (2)
計	43 (100)	37 (100)	48 (100)	63 (100)

「すばらしかった」「かなりよかった」は中三63%、高三48%、「あまりよくなかった」「全くよくなかった」は中三14%、高三12%。

(1) よかったと思う理由

〔中三〕①「よい友だちや先生にめぐりあえた」「友だちがたくさんできた」「小人数の学校なのでみんなと友だちになれた」等（19名）。②「のびのびできた」「厳しい規則がなかった」「受験の心配が半分ですんだ」等（13名）。③「授業がたのしい」「わかりやすい授業」等（4名）。

〔高三〕①「のびのびと自由に生活ができた」「学校に暖かみがあった」等（12名）。②「たくさんの友だちができた」（7名）。③「委員会、学校祭活動に主体的にとりくんだ」「HRや生徒会で友人といろいろできた」「部活動をしっかりやれた」等（4名）。④「よい先生に出会った」（2名）。

(2) よくなかったと思う理由

〔中三〕①「だらだらとすごしてしまった」「ぬるま湯になれてしまった」等（3名）。②「先生がいかん」（1名）。

〔高三〕①「部が活発でない」「生徒が無気力」「だらけている」「だらだらしていて文化祭、体育祭にも活気がない」「生徒に主体性がない」「中途半端」「全体的になれあいが強い」「考えられないほど無気力な性格になってしまった（これは自分のせい）、委員などやると損するという観念が身についたことを後悔している」（女）「学校のふんいきに甘んじること実に多く、自分自身で何かを模索するということがなかった」（女）「だらけた体制、けじめのないふんいき、校風が自由だとうたいながら、本当の意味での自由がない。それに浸りきっている生徒、教師双方に嫌悪を感じる」（女）等（10名）。

B. 名大附中又は附高を卒業することに誇りを感じるか。

	中		高	
	男	女	男	女
	名 %	名 %	名 %	名 %
大いに感じる	3 (7)	0 (0)	4 (8)	2 (3)
かなり感じる	3 (7)	8 (22)	10 (21)	16 (26)
どちらともいえない	19 (45)	25 (68)	21 (44)	23 (37)
あまり感じない	8 (19)	4 (11)	6 (13)	10 (16)
全く感じない	9 (21)	0 (0)	7 (15)	11 (18)
計	42 (100)	37 (100)	48 (100)	62 (100)

「誇りを感じる」は、中三18%、高三29%。「感じない」は、中三26%、高三31%。

◎どのような点に誇りを感じるのか。

〔中三〕①「国立」「“名大附”という名称」(5名)。②「伝統のある学校ということ」(2名)。③「生徒の自主性尊重ということでしばられない」「不良みたいな人がいない」「生徒数が少ない」（各1）。

〔高三〕①「自由なこと」「ふんいきがいい」「しばりつけられない」「自主性の尊重」「民主的なこと」等（13名)。②「国立であること」「名称」（10名)。③「大学受験のみを目標とする予備校化していない」「受験にとらわれない」「ただ勉強、勉強とうるさく言うことかない」等（7名)。④「先生がそれぞれ自分の仕事に誇りをもってうちこんでいる感じ」「いい先生が多い」（2名)。

C. 中学又は高校を卒業し、新たに高校生活、大学生活又は社会生活を迎えるにあたって希望や意欲をもっているか。

	中二		高二	
	男	女	男	女
	名 %	名 %	名 %	名 %
大いにもっている	9 (22)	3 (8)	15 (31)	15 (24)
かなりもっている	19 (45)	14 (38)	26 (54)	36 (57)
どちらともいえない	10 (24)	18 (48)	5 (10)	8 (13)
あまりもっていない	1 (2)	1 (3)	1 (2)	3 (5)
全くもっていない	3 (7)	1 (3)	1 (2)	1 (2)
計	42 (100)	37 (100)	48 (100)	63 (100)

「大いに」「かなり」を合わせて「もっている」は、中三57%、高三83%。「あまり」「全く」を合わせて「もっていない」は、中三8%、高三6%。参考のため、一年前の調査によると、中二は「もっている」35%、「もっていない」22%。高二は「もっている」37%、「もっていない」30%。中・高とも、二年生から三年生にかけてそれぞれ大きな変化である。高校、又は大学への進学に迫られた結果の意欲上昇と言えよう。

D. 本校では〈生徒の自主性の尊重〉が教育方針となっているが、この方針が実際に生かされていると思ったか。

	中二		高二	
	男	女	男	女
	名 %	名 %	名 %	名 %
非常によく生かされている	4 (10)	4 (11)	1 (2)	2 (3)
かなり生かされている	14 (33)	17 (46)	6 (13)	10 (16)
どちらともいえない	14 (33)	10 (27)	17 (35)	14 (22)
あまり生かされていない	5 (12)	4 (11)	15 (31)	30 (48)
全く生かされていない	5 (12)	2 (5)	9 (19)	7 (11)
	42 (100)	37 (100)	48 (100)	63 (100)

「生かされている」は、中三49%、高三17%。「生かされていない」は、中三20%、高三55%。（一年前の高二は、「生かされている」12%、「生かされていない」57%。）

高三の場合、一年前も今回もほぼ似た数字で、過半数の者が「生かされていない」と答えていることは、学校にとって重要な検討課題といえよう。

E. この一年間をふり返ってみて、学習指導及び生活指導についてきびしいと思ったか。

(1) 学習指導

	中		高	
	男	女	男	女
	名 %	名 %	名 %	名 %
非常にきびしい	2 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
かなりきびしい	8 (20)	5 (14)	2 (4)	1 (2)
どちらともいえない	14 (34)	9 (24)	17 (35)	16 (25)
あまりきびしくない	12 (29)	22 (59)	15 (31)	30 (48)
全くきびしくない	5 (12)	1 (3)	14 (29)	16 (25)
計	41 (100)	37 (100)	48 (100)	63 (100)

(2) 生活指導

	中		高	
	男	女	男	女
	名 %	名 %	名 %	名 %
非常にきびしい	3 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
かなりきびしい	6 (15)	6 (16)	2 (4)	1 (2)
どちらともいえない	19 (46)	10 (27)	17 (35)	16 (25)
あまりきびしくない	10 (24)	19 (51)	15 (31)	30 (48)
全くきびしくない	3 (7)	2 (5)	14 (29)	16 (25)
計	41 (100)	37 (100)	48 (100)	63 (100)

学習指導、生活指導いずれも、中三、高三それぞれ、「きびしくない」と感じている者が圧倒的に多いことが目立つ。（学習指導、生活指導ふくめて、一年前の中二は「きびしい」9%、「きびしくない」36%。高一は「きびしい」10%、「きびしくない」53%であった。）

学習・生活それぞれの指導からきびしさが感じられないということが、いわゆる「ぬるま湯」的校風の原因になっていることがよくわかる。生徒が中・高とも全体として、きびしさを求めていたことは一年前の調査の結果によく表われていて、教官会議でも検討し、56年度はきびしい方針でのぞんだはずであるが、数字の上では、むしろ「きびしくない」が増えている。このことについては、後の「学校に対する不満・要望」のところで、生徒の感じ方、考え方の問題として総合的に考察することにしたい。

F. この一年間、ホームルームの諸活動は充実していたと思うか。

	中		高	
	男	女	男	女
	名 %	名 %	名 %	名 %
非常に充実していた	3（7）	3（8）	0（0）	1（2）
かなり充実していた	7（17）	6（16）	8（17）	8（13）
どちらともいえない	10（24）	17（45）	13（28）	16（25）
あまり充実していなかった	15（37）	11（29）	16（34）	23（37）
全くむなしかった	6（15）	1（2）	10（21）	15（24）
計	41（100）	38（100）	47（100）	63（100）

「充実していた」は、中三24%、高三16%。「充実していない」は、中三42%、高三58%。（一年前、中二「充実していた」9%、「充実していなかった」57%、高二「充実していた」8%、「充実していなかった」80%。）

全体として、中三・高三とも、「充実していなかった」が「充実していた」より圧倒的に多い。しかしながら、一年前に比べれば、「充実していた」は、中二9%→中三24%、高二8%→高三16%。「充実していなかった」は、中二57%→中三42%、高二80%→高三58%と充実化の方向に進んだことが認められる。

G. 学校に対する不満・要望があるか。それはどんなことか。

	高三		
	男	女	計
	名 %	名 %	名 %
ある	28（58）	50（79）	78（70）
ない	8（17）	6（10）	14（13）
わからない	12（25）	7（11）	19（17）
計	48（100）	63（100）	111（100）

（参考）56年3月の調査結果

		ある	ない
中二	男	24%	76%
	女	58	42
中三	男	53	47
	女	45	55
高一	男	57	43
	女	62	38
高二	男	80	20
	女	66	34

◎学校に対する不満・要望等の内容

〔中三〕①「生徒一人ひとりがもっと自覚するような指導」「“自主性尊重”という教育方針だったらそれをおし通せばよい」「規律が守られていないからといって先生たちが生徒にきびしくしても個人で直そうと思わない限り乱れていくと思う」(女)、等8名。②「もっときびしくすること」「男子はしっかり帽子をかぶるようにする」(男)、「中学生にパーマとか脱色などは似合わない」(女)、「生活委員会を活発化させること、そして風紀問題に力を入れること」(男)、「俗にアメとムチを使い分けた教育を！　ということを耳にしますが、この学校ではアメばかり与え、生徒は虫歯になっている！　きびしくすべきときはやはりきびしくした方がよい（また、きびしいだけでもいけないと思う）」(男)、「学校側が個人の自主性を尊重するという風で今まできて、“乱れたからどうしよう”なんて甘い考えもいい所だ！“身から出たさび”ではないのか」(女)等7名。③「先生方が生徒に勉強意欲をもたせるようにもっとたのしい授業をしてほしい」（女）、「受験指導の時期がおそすぎる！　せめて中二の後半から内申のことなどを説明してほしい。テストの2～3日前に内申のことを言われてもどうすることもできない。受験に向かって“落ちこぼれたらどうする？”なんて言葉をいわないでほしい」（女）等2名。

〔高三〕①教師に対する不満33名（男子10名、女子23名）。②教育方針と現実との矛盾に対する不満20名。③その他（進路指導、部活動、生徒会等に関するもの）。以下、生徒の文章を原文のまま、いくつかあげてみよう。

(a)「本校の自由を生かすためには積極的かつ個性的な人々が出てこなくてはいけない。中学からの6年教育ということであり、受験を考えなくてよいのだからやりたいことができると思う。しかし、今の本校ではだらだらした校風がうけつがれているので、もっと一転した何かの機会を与えた方がいい。」(男)。

(b)「〈自主性の尊重〉という大義名文をたてにして、実は教師が生徒の自主性を期待するとかいって怠けているのではないか？　本来自主性とは養うものであり、それでなければこの世に生まれたかいがない。漠然とした自由を与えられても具体的なものを与えられないのは教師の怠慢ではないか？」（男）。

(c)「今後この学校も少しずつ変化していくと思うが、他校と同じような学校にするのでなく、独自の校風をもった学校としてあってほしい。たとえそれが、この学校の風紀・学力等の悪化を招いたとしても、やはりこんな学校が一つくらいあってもいいと思う。高校進学率の高い今の社会では高校の画一化ではなく、多様化が生徒の希望であると思うから」（男）。

(d)「せっかくリベラルな教育のできる立場にある学校なのだから、受験などにとらわれずもっと興味のもてる内容のある授業をやってほしい。他の学校にない特徴を生かさなければ、この学校の存在価値も薄れるし、生徒が誇りをもつこともできないと思う。また人数の少ないせいもあって、いわゆる“ぬるま湯”とい

う状態になってしまうわけだが、これは教官の方にむしろ、そういう状態が顕著だと思う。」（男）。

(e)「現在、生徒や学校全体のふんいきがよくないということで、自主性の尊重をやめて、きびしい学校に少しずつ変えていこうという考えがあるようだが、私はやはり自主性を尊重して一人一人の個性をのばしてほしいと思う。日本の学校は余りにも“みんないっしょ”が多すぎるように思う。先生たちも“みんないっしょ”の状態にしておこうとしているようだ。」（女）。

(f)「何でも悪いことは生徒側にあるように主張する先生が多すぎる。自由な学校というスローガンは題目だけにすぎない。お互い自分たちの欠点はわからないから話し合いをしても決裂するだけだと思うが、これからは先生づらせず、生徒も反抗するだけでなく話しあいをもりこんだ学校になっていくことを願う。先生だけで生徒のことを決めてしまえば、反抗するにきまっている。」（男）。

(g)「今はまだ入試が終っていないし、大学落ちれば考えも変わるかもしれないけど、あんまり“受験！受験！”言ってほしくないなぁと思う。今、親たちは、受験体制のわるいこの学校に私を入れたことを“失敗だった”なんて言っているけど、私はぜったいにそうは思わない！　でも、今の社会では学歴とかがやっぱり重視されるし、就職とかになるとやっぱり学校の名前というか“程度”は大切だからむずかしいと思う。別に今のゆとりっぽい教育が受験に反比例するわけではないと思うけど……もしかしたら、私は自分で勝手に勉強するのをさぼって本校のよさとして逃げているだけではないのかなと思うこともある。東郷みないなのは教育的にどういうというよりも、自分がそんなしんどい思いをするのごめんだ！　って思って批判してるだけのような気がする。ほんとうはよくわからないけれど、人生について、授業について、ほんとうに話し合える先生がいるというのは、でも、たしかに自慢できると思う。」（女）。

(h)「他の進学校みたいに受験体制がないのは、ある面ではいいことかもしれないけれど、受験体制がないのだから浪人が多いのはあたりまえだ!!　それを先生がいやみみたいに言うのは耐えられません。それから何かお説教する時も先生によって言うことがちがうのです。ということは結局、先生方が自分の意見をおしつけているみたいです。」（女）。

(i)「〈自主性の尊重〉?!ふん！　笑わせないでよ!!口先だけじゃない。いいかげんなことを言わないでよ。だまってればいいんだよ、こんな偽善的で無意味なことばは！」（女）。

(j)「自主性の尊重が慣れ合い、生活のだらけに向っている。自主性を尊重しつつ、慣れ合い、生活のだらけをピッと引きしめるものを作ってほしい。」（女）。

以上いずれもアンケート用紙の記入欄に小さな文字でぎっしりと書き込まれた意見・感想である。ここにあげたものは書かれていた数の約1/5だが、卒業や受験を控えた高三の生徒たちそれぞれの心中がよく示されていると思う。短時間に無記名で書かれたものだけに表現が無造作で、いっそう青年期特有の感情がなまなましい調子で迫ってくる。

H. 本校生徒の学校生活態度（集団生活の規律等）についてどう思うか。

	中二		中三	
	男	女	男	女
	名 %	名 %	名 %	名 %
非常によい	0 (0)	0 (0)	2 (5)	0 (0)
かなりよい	3 (14)	6 (32)	7 (17)	9 (24)
どちらともいえない	8 (36)	8 (42)	14 (33)	18 (49)
あまりよくない	8 (36)	5 (26)	14 (33)	8 (22)
全くよくない	3 (14)	0 (0)	5 (12)	2 (5)
計	22 (100)	19 (100)	42 (100)	37 (100)

	高一		高二	
	男	女	男	女
	名 %	名 %	名 %	名 %
非常によい	4 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
かなりよい	4 (9)	7 (15)	3 (9)	5 (11)
どちらともいえない	15 (34)	12 (26)	6 (19)	7 (15)
あまりよくない	13 (30)	18 (39)	16 (50)	29 (62)
全くよくない	8 (18)	9 (20)	7 (22)	6 (13)
計	44 (100)	46 (100)	32 (100)	47 (100)

「よい」と思う者は、中二22%、中三23%、高一16%、高二10%。「よくない」と思う者は、中二39%、中三37%、高一53%、高二73%。全体としてかなりきびしい自己評価である。

（参考）この一年間をふり返ってみて学習指導及び生活指導についてきびしいと思ったか。

(1) 学習指導

	中三	高一	高二	高三
きびしい	20%	12%	5%	5%
どちらともいえない	23	42	31	19
きびしくない	52	46	64	76

(2) 生活指導

	中三	高一	高二	高三
きびしい	19%	24%	5%	3%
どちらともいえない	37	27	29	30
きびしくない	43	48	66	68

（参考）この一年間をふり返ってみてホームルームの諸活動は充実していたと思うか。

	中三	高一	高二	高三
充実していた	24%	9%	8%	16%
どちらともいえない	34	22	28	26
充実していなかった	42	69	64	58

以上の参考資料を関連づけて考えてみると、全体的な傾向として、きびしさ、充実感の欠如が生活態度へのマイナスの自己評価につながっており、それは本校のいわゆる「ぬるま湯」的状況への批判・反省ともみられよう。

◎生徒の態度のどんな点がよい、又は、わるいと思うか。今後どうしたらよいと思うか。

〔中二〕よい点①「校内暴力がない」「不良がいない」等7名。②「のびのびしている」「いきいきと活動できる」等5名。③「先生と生徒が親しい」「先生と気軽にしゃべれる、だから暴力がおきない」等3名。④「生徒会活動がよい」「文化祭の団結」等2名。

わるい点①「学校にきびしさがない」「だらしがない」「けじめがない」「甘えている」「自分勝手な態度」等23名。②「服装、靴、髪型等の乱れ」「授業中うるさい」「先生に対する態度が悪い」「公共のものを大事にしない」「そうじが不十分」等13名。

どうしたらよいか①「まじめにやりたい」「しっかり授業を受けたい」「積極的に熱中し、がんばりたい」等15名。②「校風を正しく生かしたい」「よい学校づくりに努力したい」等10名。

〔高一〕よい点①「礼儀正しい」「まじめ」「すなお」等6名。②「みんな平凡、きわだって悪いことはしない」「すごい不良はいない」等2名。

わるい点①「集団性に欠ける」「非協力的」「ホームルームで意見が出ない」「団結力がない」「だらけている」「勝手な態度」「集会でうるさい」等31名。②「授業中よくしゃべる」「講師の授業だとうるさい」「授業態度が先生によって変る」「無気力」「勉強意欲がない」「自主性のない人が多い」等12名。③「服装・髪型が高校生らしくない」「パーマをかけたり、スカートを長くしたり不良っぽい人がいる(でも自由でいい)」「学校が汚い」「空ビンの散乱」「強い者にはいい子で弱い者は馬鹿にするようなずるく卑怯な男子が多い」「盗難がある」等10名。

どうしたらよいか①「一人一人自覚する」6名。②「もう少しきびしくする(特に授業態度)」「悪い奴、無気力な者は退学させよ」「生徒が自分に責任をもつように先生方からもよりよい指導をしてほしい」「盗難防止など教師がもっとしっかりやってほしい」「そうじのてってい」等9名。③「入試制度を変える(くじを止める、他中と附中と同じ条件で受験させる)」「クラス数をふやした方がよい、友人関係のトラブルが多いのはクラス数が少なすぎるからだ」「附中からくる人たちと他中からくる人たちと余りかみ合わないし、他中からくる人たちも近づきたくないし、コミュニケーションが悪くなる。附中のあり方を考えてほしい」等8名。④「よくならない」「とうしょうもないと思う」等5名。⑤「このままでよい」3名。

〔高二〕よい点①「わきあいあいとした感じ」「性格のよい人ばかり」「のびのびしている」「こせこせしていない」「生徒同志のつながりが深い」等5名。②「校内暴力がない」2名。

わるい点①「だらけている」「無断欠席・欠課・早退等」「授業中の態度」「服装の乱れ」「盗難がある」「式・朝礼がざわざわしている」「目に余るような行動がみられる。ビンを窓から投げるとか、テストが終ったからといって勝手に遅刻や早退をしたり常識に欠ける行動をする人間がふえた」「バス通学時に他の客に迷惑ばかりかけてて、同じ附属だと思うと死にたくなってくる。校舎をすすんで汚し、それを誇りに思う人が多い。早く卒業してしまいたい」「学年が上るほどだらだらしなさが目立ってきてさみしい気がする。もう少し回りのことを考えてほしい」等26名。②「ホームルーム活動への不参加」「積極性がない」「どうでもいいという雰囲気」「自分勝手」「自分なりのしっかりした考えをもっている人が少く、何かといえば集団でごちゃごちゃする傾向にある。だから、みんながやっているから自分もという考えがはびこっていて、悪いことはみんなでやればこわくないという様子である」等16名。

どうしたらよいか①「生徒個々の自覚」「私生活を正しくする」「生徒一人ひとりがもっと自覚をもって活動すべきだと思う。会議にも全く興味を示さないようだし、そうじもいやいややっている。名大附属はぬるま湯であるという考えが定着しきっているので、それをとり除くしかないと思う。規制をきびしくするだけではいけないと思う。きびしすぎると、かえって反動も強くなるからである。先生によって指導の仕方がちがうと、私たちはとまどってしまうので、ある程度のところで統一してほしい。」(女)、「生徒個人個人が"規律ある生活"に対して積極的になる必要があると思う。お互いに足をひっぱっている傾向があると思うので、お互いに向上心をもち、友づきあいできるようにしていかなければいけないと思う。」(女)等10名。②「先生がだらけないようにする」「教官も身勝手、もっと生徒のことを考えろ」「授業中きちんとして、しゃべる人もなく緊張感のあるような授業をすること」「規則をきびしくするよりも道徳的指導を行うとよい」「規律をきびしくすること、それに対する生徒の反対運動が、かなり、いや全生徒にゆきわたればどうにかなる

だろう」「何か目標のある学校にしなければ一人一人が目標をもってやる気にならない」「静かな環境をつくること。昼休みの図書館の利用の様子は異常だと思う。その他のことでは生徒をしめつける必要は現状ではないと思う」（男）、「たしかに生徒の態度はわるくなりつつあるが、同時に先生もあまいし、たるんでいる点があると思う。例えばテストにくるのがおくれ、時間が縮むことはいつもだし、週休二日制とか、第一、放任主義は楽だ。先生も人間にちがいないけど、少しでも先生としての立場はとるべきと思う。すれば、生徒も少しは見習うだろう」（男）　等8名。③「進路指導を1・2年から進めてほしい」「進学したい人にとってここの勉強は甘すぎる。自分でできる人はいいが、どうしても遊んでしまう人のためにもっとしっかりした進路指導をしてほしいものだ」（女）、「教科指導をもっときびしくしてほしい。大学進学指導をもっとしてほしい。今は教科間の差が大きすぎる」（女）、「受験のためでない勉強というのが本来の姿かもしれないが、現実問題として大学を受けようと思う人がたくさんいるのだから、せめて教科書はしっかりやってほしい。たしかに内容の深い授業かと思うが、そのために教科書が半分も残ったというのでは、みんなが河合や代々木に走るのもむりはない。けっしてつめこんでくれとはいわないので」（女）　等5名。④「生徒会、委員会活動の活発化」「部活をさかんにする」等2名。⑤「どうしょうもない」「廃校」「直らない」等5名。

3.「きびしさ」の問題

以上、名大附属中学・高校生が自分達の学校生活をどう感じ、どう考えているかについてみてきた。この中で特に浮き彫りにされてきた傾向は次の諸点である。○指導の厳しさはあまり感じられない。○〈自主性尊重〉の教育方針が実際に生かされているとは思えない。○ホームルームの諸活動はあまり充実感がない。○生徒自身の態度はあまりよくない。○学校への不満・要望はかなり多い。例えば、「自主性の意味を最初にもどって考え直してほしい。抑えつけるか放っとくかのどちらかじゃだらしなさすぎる」「自主性の尊重が慣れ合い・生活のだらけに向っている。自主性を尊重しつつ、慣れ合い、生活のだらけをピッと引きしめるものを作ってほしい」「自主性とは養うものであり、(中略)漠然とした自由を与えられても具体的なものを与えられないのは教師の怠慢ではないか？」等が典型的な不満・要望である。

ここにあげたような傾向は、すでに一年前の調査結果にもっと鮮明に表れていた。(『紀要第26集、1981』P.28～P.38参照)。「きびしさがない」「不活発」、いわゆる「ぬるま湯的」というような傾向については、十余年以前の同種の調査結果にもはっきりと表れている。[7] このような問題点を克服するためには、惰性・沈滞から創造的で活力ある指導へと、教師が姿勢を転換していかなくてはならない。

さて、56年度には前回の調査結果を資料として、生徒の実態に即した指導のあり方を検討し合い、基本的生活習慣のきびしい指導に教師全員が足並をそろえることを申し合わせた。清掃の徹底、朝礼・集会の集合整列、式での校歌の歌い方、ＨＲ活動の計画等の指導がその具体例である。57年度も5月中に、今回の調査資料に基づき、生徒指導研究グループ会議、指導部長・生徒部長・運営委員合同会議、教官会議でそれぞれ討議がなされた。生徒達の傾向をどう判断し、どう対処していくべきか、様々の意見はあったが、調査への多数生徒の真摯で積極的な回答を評価し、学校・教師に対する批判も謙虚に受けとめ、生徒の心情、青年期心理への理解を深めることの必要性を認識し合った。そして、57年度も、基本的生活態度の指導を強化しつつ根気よく継続していくことにした。きびしい指導とは、細かい規則によって生徒の外形面を管理統制することでなく、生徒たちの内面に訴えて納得させ、自主的に行動させることであるとか、いや、もっと現実的に統制を強化することであるとかの論議も交わされた。

こうした反省や対策が、今後、ぬるま湯的状況の変革に生かされるか否かは、毎日毎時の教科及び教科外活動の指導を教師全員がいかに充実させていくかにかかっているといえよう。

〔注〕

(1)『朝日新聞』56.10.26
(2)『同　上』56.12.27
(3)『同　上』57.3.29
(4)経済教育参考資料№146『青少年問題の現状と対策――特に校内暴力を中心として――』（日本経済教育センター，56.10）P.14～P.15
(5)総理府青少年対策本部編『昭和56年版　青少年白書――青少年問題の現状と対策――』（大蔵省印刷局，57.1.16）P.203
(6)拙稿「生徒指導における自由・自主性・規律等の問題――生徒の実態に即して――』（『名大教育学部附属学校紀要　第26集，1981』）
(7)『名大教育学部附属学校紀要　第15集，1969』P.48～P.56
『名大教育学部附属学校紀要　第16集，1970』P.49～P.65